

**放送日** 令和4年4月12日（火）  
**担当者** 市長 上野 正三

おはようございます。市長の上野正三です。

まず始めに、新型コロナウイルス感染症についてであります。3月21日にまん延防止等重点措置が解除されましたが、次々と発生する変異株の流行により、今もなお予断を許さない状況が続いております。

職員の皆さんにつきましては、市民の皆さんの健康と生活を守るため、ワクチンの3回目接種や、市民生活の安定と経済活動の回復等に向けた取り組みの推進を引き続きお願いいたします。

さて、令和4年度がスタートし、2週間が経過しようとしています。

今年度は、5期目の市政運営にあたり、「市民との連携」「魅力発信による活性化」「持続可能な市政運営」を基本理念とし、活力と魅力に溢れ、市民の皆様が将来に夢と希望を持てるまちづくり、また、市民の皆様とともに策定した第6次総合計画に掲げるまちづくりのテーマ、「自然と創造の調和した豊かな都市」の実現に向け、引き続き、各種施策に取り組んでいるところであります。

ボールパーク構想や駅西口周辺の活性化をはじめとした各種施策を推進し、にぎわいと活力にあふれる輝くまちを作るためには、職員一丸となって力を合わせていく必要があります。

北海道日本ハムファイターズの新球場「エスコンフィールドHOKKAIDO」がいよいよ来年、2023年3月に開業いたします。

最近スタジアムの全体像もはっきり見えてきており、市内外から多くの方々が見学に訪れ、その様子を写真に収めるなど、期待感が日に日に増しているように感じます。

また、プロ野球が開幕し、新庄BIGBOSSがこれまでにないような新しい風を吹かせています。

BIGBOSSは、プロ野球の存在意義は、そこの街に住む人たちの暮らしが少しでも彩られたり、単調な生活を少しでも豊かにする事に他なりませんと発言しており、誰よりも地域のこと、プロ野球のことを考えています。

北広島市としましても、ボールパークからもたらされる価値と機会を多くの方に感じていただけるよう、引き続き実現に向けて取り組んでまいります。

職員の皆さんには、本市の歴史的なまちづくりに関われることに誇りと喜びを感じ、仕事を行っていただきますよう、よろしくようお願いいたします。

**放送日** 令和4年4月13日（水）  
**担当者** 副市長 水口 真

おはようございます。副市長の水口真です。4月6日から15日までの期間、春の全国交通安全運動が市内でも展開されています。雪が解け、視界がよくなり自然と車のスピードが上がる時期です。市内各地域の交通安全協会や町内会の見守り隊の皆さん、学校関係者や市民課職員の皆さんは、朝7時30分から街頭啓発に立ち、特に入園入学児童など歩行者の安全確保に努めていただいています。

今日も安全第一の運転を心掛けましょう。

さて、本年度、市役所には31名の新人職員が入庁しました。新人職員研修の開講にあたりお話ししたことを紹介させていただきます。

今、本市は、第6次の総合計画に入り、ボールパーク構想を核としたまちづくりを進めています。上野市長は、この取組は究極の地方創生であると、常々言われます。これは、球場の誘致により地域の社会・経済活動を活発にさせ、様々な分野へ波及効果をもたらすことにより持続可能なまちづくりに取組むことへの決意を表すと共に、社会の変容に対し改革する自治体だけが生き残る時代であることを示唆されてるものと私は捉えています。

日本の人口減少は続きます。本市においてもこの傾向が鈍化しても続くこととなります。20年後には高齢者数がピークを迎えるなど社会を支える担い手がこれまでよりも更に少ない社会となります。総合計画期間の10年間は、地域社会を維持するために必要な改革を進める重要な期間なのです。

入庁された皆さんが、20年後にはこのまちを担う職員になっていなければなりません。

改革し、持続可能なまちづくりができるか、できたかは、皆さんの働き方によって決まってくることとなります。自ら学ぶこと、実践することを期待します。このような話をしました。今回でこのお話は2回目ですので、少しの間は皆さんの記憶に残るものと思います。

最後に、本年度の私の業務目標は、1つ目は昨年度に引き続き市コンプライアンスの策定に取り組めます。

2つ目は職員の働き方・生活と市組織の成長をいかにうまくつなげるかをテーマに人事制度の改革に着手します。3つ目は、市民参加の充実・多文化共創社会の基盤づくりを目指し、多様な人材との連携、市と市民の懸け橋となる外郭団体との関わり方について整理をします。

**放送日** 令和4年4月14日(木)  
**担当者** 教育長 吉田 孝志

ご来庁いただいています市民の皆様、職員の皆さん、おはようございます。教育長の吉田孝志です。

さて、コロナ禍の終息を見通すことができず、社会全体そして学校教育等が大きな影響を受ける事態が続いており、未だA f t e r コロナとは言えない状況にあります。そうした中、学校においては、引き続き感染症対策に意を用いつつ、子どもたちの心と体の健康、安心して安全な居場所の確保に努めるとともに、一人1台配付のI C T端末を活用するなど、学びの保障にも鋭意取り組んでいるところであります。学校教育への、皆様のご理解とご支援をお願いするものであります。

さて、昨年12月の臨時国会において、岸田総理は、『国の礎は「人」である。人への分配は、「コスト」ではなく、未来への「投資」である。』と、教育の重要性について強調されました。また、末松文部科学大臣は、今年の年頭所感で「教育や科学技術、スポーツ、文化芸術という教育分野は、人を教え育み、英知や表現力、創造力を最大限に引き出すことを通して、国民・市民の皆さんの人生を幸福で豊かなものとし、人々の絆を深め、我が国のソフトパワーを高めるものであり、また、成長とイノベーションの源泉となる、極めて重要な行政分野である。」と述べられました。

「人づくりは国づくり、地域づくり」と言いますが、私は、教育の果たすべき使命は、北広島市の未来を担う人材の育成にあり、今後も、故郷に根差し、地域に貢献する人づくりに全力を傾注する必要があることを、改めて感じたところであります。教育委員会は、先を見通し、広い教育的視点をもって、人の成長に携わり、人生の各段階での成長をしっかりと支え、支援し、見守ることのできる体制・環境づくりに努めることが重要であると考えているところであり、今後も、小中一貫教育やコミュニティ・スクールの推進や、各種事業・取組のさらなる進展を通して、子どもたちの成長にいつそう寄与してまいりたいと考えているところであります。

子どもたちが、市民の皆さんが、学びによって幸せを感じているか、幸せな環境にあるか、を教育行政推進の根幹的な役割と捉えているところであり、「子どもが、市民が、主役・主語となる教育」を大事にしていまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力の程をお願い申し上げます。

**放送日** 令和4年4月15日（金）  
**担当者** 保健福祉部長 奥山 衛

おはようございます。保健福祉部長の奥山衛です。

4月1日の辞令交付の場で今年度採用された職員の皆さんの宣誓書の読み上げを聞き、改めて私も初心に帰って全体の奉仕者として日々の業務を進めていかなければならないと思っていますところでは。

私は約1年半ぶりに保健・医療・福祉などを担任することとなりましたが、まずは部内の職員一人一人の業務に対する考え方などの把握に努め、各課の管理職の皆さんを通じるなどして自身の業務に対する考え方を伝え、挨拶を含めた言葉のキャッチボール・コミュニケーションを図りながら、保健福祉部の担任する様々な業務を市民の皆さんに寄り添って適切に進めていきたいと考えています。

そして、そのことが市民に信頼される北広島市の保健福祉行政、まちづくりに繋がるよう努めてまいります。

B Pの開業を控え、まさに北広島市にとって変革の1年となります。

若い職員の方々には今の担当業務のプロフェッショナルを目指すとともに、市の行政運営を広い視点から見つめることに心がけてほしいと思っています。ほとんどの職員は定期的な配置換えが今後も行われます。どの部署も市民のために重要な組織であることを認識できれば、おのずと縦割りではなく、横断的な情報共有の重要性が見えてくるはずで。

また、中堅、ベテランの職員の皆さんには、市民ニーズが多様化し今般のコロナウイルス対応や災害対応など、行政運営における業務量も多くなり、高い質も求められる状況であると思いますが、今年は多くの職員が入庁されました。これらの方々早く業務スキルを身に着け北広島市にとって貴重な人材となるためには、中堅、ベテラン職員の様々なサポートが重要と考えています。

私もこのことに留意して日々過ごしていきたいと思っています。

**放送日** 令和4年4月18日（月）  
**担当者** 保健福祉部理事 柄澤 尚江

おはようございます。保健福祉部理事の柄澤尚江です。4月から新たに設置された福祉総合相談室の室長としてその事務を取扱います。

福祉総合相談室は、子どもから高齢者まで切れ目のない相談体制をとることと、引きこもりやヤングケアラー等、制度の狭間で必要な支援につながっていない方々の相談窓口となります。各課の業務のなかで、心配な様子がある市民の方がいらっしゃいましたら、その方を適切な支援につなげるために福祉総合相談室へ情報提供をお願いします。

さて、私は前回のスピーチで自分が入庁した時、先輩保健師3人がいっぺんに退職することになり、心細くなって職場で号泣したことや、精神障がい者と接することに苦手意識が強かった自分が、精神障がいのある方の色々な出会いを通じて意識が大きく変わり現在に至るので、人は何かのきっかけで変わることができるという話をしました。このような自分の弱さを情報公開するという技法も精神障がいのある方々から教わり、実践してみると気持ちが楽になります。私はたくさんの方を障がいのある方に教えて頂きました。

私たちの部署に入ってくる相談は、緊急性が高くすぐ答えをださなければいけない時もありますが、多くはどうすればよいという答えをすぐに出すことが難しく、解決に年単位の時間が必要だったり、解決にいたらないこともあります。簡単に結論がだせない状況に忍耐を持って向き合える能力をネガティブ・ケイパビリティと言います。ここでのネガティブは、否定ではなく、簡単に答えが出ない状態という意味です。答えが出ない状態に耐えながら、解決に向かって取組んでいくことが福祉総合相談室の大事な役割だと思っています。コロナの対応もまさにネガティブ・ケイパビリティが力を発揮すると言われていています。

**放送日** 令和4年4月19日（火）  
**担当者** 子育て支援部長 尾崎 英輝

おはようございます。子育て支援部長の尾崎です。本日は「子育て支援」についてお話しします。現在急速に進む少子化が、人口、特に生産年齢人口の減少と高齢化を通じて社会に大きな影響を与えています。市が直面している様々な課題も多くが少子高齢化に伴う人口減少が原因といっても過言ではないと考えます。子育て支援は、これまでの少子化対策から一歩進み、当事者目線で子どもの育ち、子育てを支援することであり、子供を産み育てたいと思う市民一人ひとりの希望をかなえるため保育や教育、就労や生活などの環境を社会全体で整備していくものです。市総合計画の基本計画の一番初めに「子育て支援の充実」があるのは、まちづくりを進めるうえで子育て支援がいかに重要かを表しているものと考えます。子育て支援部では今年度、新たな取り組みとして待機児童を出さないためボールパーク内に病児保育機能付き認定こども園を整備したり、生活に困難を抱える児童のため学習支援や生活支援を行う子ども第3の居場所の整備などを行います。子育て支援は市民生活支援であり市民生活を支える市の全ての部署と関係するものです。今後とも子育て支援にご理解とご協力をお願いいたします。

**放送日** 令和4年4月20日（水）

**担当者** 水道部長 人見 桂史

おはようございます。水道部長の人見桂史です。

今年度は31名と過去2番目に多い新人職員を迎えることが出来ましたので、早く一人前になって欲しいという思いを込めて二つのアドバイスをさせていただきます。

このことは過去にも一度お話していますが、その後多くの新人職員が入庁されておりますのでもう一度お話させていただきます。

一つ目は、経験値を少しでも早く上げて欲しいということです。人間は経験した事以外は中々上手く出来ないものです。ですから、経験値を上げるために、他人の経験も自分の経験にしてください。それはどういう事かと言いますと、皆さんも仕事をしていく上で、色々な問題にぶつかることがあるでしょう。当然自分の仕事上で発生した問題は、自分で対応処理することになるのですが、それだけではなく他のスタッフの問題に対しても、どうして問題が発生したのか、どのように処理したのか、処理の結果はどうであったか、もっと良い対応方法は無かったのかということ自分の事として考えることで自分の経験にして欲しいのです。そうすることにより、自分が同じ様な場面に直面した時の対応が全く違ってくると思います。

二つ目は、常に自分で判断する癖をつけて欲しいということです。市役所の仕事には、前例踏襲という部分も多々ありますが、そういう仕事についても自分がするからには、前と同じにやりましたではなく、自分で理解、判断をしてから進めて欲しいのです。結果は同じになるかもしれませんが、若いうちからそういう癖をつけることは大事だと私は思っています。

以上の二つが私からのアドバイスです。良かったら参考にして下さい。

**放送日** 令和4年4月21日(木)

**担当者** 教育部長 吉田 智樹

おはようございます。教育部長の吉田です。

平成3年に社会教育主事という専門職として入庁し、主に社会教育・生涯学習の振興業務に取り組んできました。

「生涯学習は一生涯の学び」とも言われています。

戦後、我が国では、戦時下の中で学校に行けなかった国民に対し、学びの場として社会教育活動が展開されてきました。1965年くしくも私の生まれた年に、フランスのポール・ラングランが、「教育は、児童期、青年期で停止するものではなく、人間が活着ている限りつづけられるべきである。」と生涯学習を提唱し、その後、我が国においても生涯学習の振興が図られてきました。

「生涯学習は」とは、わたしたちが生涯にわたって自らが主体的に行うすべての学びと言えます。

例えば、私が入庁した頃は、公文書は手書きか和文タイプで作成していました。その後、ワープロが主流となり、当時私も自前でワープロを2台も、購入した記憶があります。そして、パソコンが主流となり、現在に至っていますが、この事務機器への対応をとってみても、機器の操作や、新たなソフト知識を学び、学んだ成果を活かしながら、日々の業務に取り組んでいることそのものが「生涯学習」と言えます。

人は、生まれるとすぐに、家庭を中心とした、「しつけ」という名の学びを始め、学校に通い「勉強」という名の学びの機会に出会います。社会に出ると仕事にかかわる学びや、人生を豊かにする学びに出会い続けることとなります。まさしく、家庭教育・学校教育・社会教育すべての学びが生涯学習であり、一人一人の生きていく姿そのものに「学び」は深くかかわっているといます。

新年度、新たな体制のもと学びを通じた個々のスキルアップを図りながら、学んだ成果をしっかりと業務に活かし、市役所全体のレベルアップに結び付け、そして、仲間との出会いを大切にし、職員個々の人生そのものを豊かにすることが、延いては、「笑顔あふれる豊かなまち」づくりに結びつくものと確信しているところです。



**放送日** 令和4年4月22日（金）  
**担当者** 市民環境部次長 阿部 泰洋

おはようございます。市民環境部次長の阿部泰洋です。

4月から役割は変わりましたが、引き続き、市の業務、そして市民環境部の業務の推進のため、日々努力していきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

さて、今日は、私自身初心に立ち返る意味も含め、仕事に取り組むうえで基本にしていることについてお話しさせていただきます。

ここ最近、市が行う事務事業については、ボールパーク構想との連携に向けた準備をはじめ、新型コロナウイルス対策など、まちづくりや社会の変化に対処するため、仕事の内容や進め方も柔軟に対応していく必要があります。

そのため、日頃から現状維持にこだわらず、今の仕事に慣れ切ってしまうまいよう、新たな情報の収集に努め、これまでの経験などをもとに、この先起こりそうな事案・結果などを想定して準備していくとともに、北広島市のまちとしての成長・発展に遅れをとらないよう、視野を広く持って業務に取り組んでいきたいと思っております。

また、仕事を進めていくうえで、スタッフや関連部署との協力体制が必要不可欠なので、業務を遂行する上での課題や、なぜその課題に対応する必要があるのかなどの情報を適切なタイミングで、シンプルかつ明確な言葉で伝えるよう心がけていきたいと思っております。

**放送日** 令和4年4月25日（月）  
**担当者** 総務部付次長 安田 将人

おはようございます。総務部付次長の安田将人です。千歳市に事務所がある道央廃棄物処理組合事務局に派遣されています。現在は令和6年から北広島市を含む広域で使用する廃棄物焼却施設を千歳市内に建設しています。

事務局は、組合の構成自治体からの派遣職員で組織されており、今年度は北広島市のほかに千歳市と南幌町から職員が派遣されています。

他の自治体の方と仕事をする中では、それぞれの派遣元で得た経験や知識を持ち寄って検討することで、良いところを取り入れ、事務の効率を高めたり、ミスを未然に防ぐなど、組織として業務の質を上げることができるとともに、私にとっても事務改善などについて「気づき」を得る機会となっています。そして、チームワークの良い組織には新しい「気づき」や柔軟な発想が生まれやすいと考えますので、組織内のコミュニケーションが大切であることをあらためて強く感じており、これからも風通しの良い職場を意識していきたいと思っています。4月から事務局に新しい方が配属されていますので、新たな視点からの「気づき」も大切にして、関係市町の皆さんと協力し業務に当たりたいと思います。

**放送日** 令和4年4月26日（火）  
**担当者** 消防署長 和知 真人

おはようございます。消防署長の和知です。

私は、この4月から1署2出張所、71名の職員と5名の再任用職員で構成される消防署の舵取りを任されました。この大所帯をまとめていくことは並大抵なことではありませんが、災害対応部隊の旗振り役として信念をもって全力で職務にあたる覚悟ですが、日を増すごとにその責任の大きさが私の大きな体に突き刺さってきているところです。

私と同じく4月に着任された三上消防長の訓示のなかで、「近年の災害は忘れないうちに次々にやってきます。市民の生命と財産を守ることを最優先に考え、臨戦態勢を整えるべく準備をしっかりとるように！」との指示がありました。

市民の安全で安心な暮らしを維持するという消防への期待に応えるため、強固な消防防災体制づくりに取り組んでいくことが重要な命題であると考えています。

本市は今後、さらなる街の発展に伴って来訪者の増加が予想されます。これに起因する災害発生リスクについても、我々消防はしっかりとマネジメントしなければなりません。災害を未然に防ぐ対策や、発災時の迅速で的確な対応の実現に向けて万全の準備を整えることが今年度のメインテーマです。

私は、本市消防がこの目標達成に向けて一丸となって取り組めるよう元気いっぱい旗を振りたいと思います。

**放送日** 令和4年4月27日（水）  
**担当者** 企画課参事 牛島 裕幸

おはようございます。企画課参事の牛島裕幸です。私からは、北広島の顔となる JR 北広島駅西口のにぎわいと交流を生む拠点づくりについてお話しします。

この事業は、駅西口側に点在している高度利用されていない4つの市有地を活用して、駅西口の魅力と価値を高め、地域経済の活性化及び定住人口の増加を推進することを目的に、パートナー企業である株式会社日本エスコンと官民連携で推進して行く事業です。

来年のボールパーク開業時には、市内外から多くの人々が北広島駅を訪れるので、スムーズで安全に利用できる、シャトルバス乗降場所の整備をはじめ、駅から各種公共機関の乗り場まで天候に左右されない屋根を整備していきます。また、旧駅前西口公園には地上14階建てで、ホテル、商業施設、広場・公園の機能を合わせ持つ、にぎわい創出、憩いの場所、暮らしの魅力に出会う複合交流拠点施設を、今年7月から工事を行い、令和6年11月末完成を目指しております。また、エルフィンパークと複合交流拠点施設を直接結ぶ歩行者デッキも令和6年3月、供用開始を目指し、駅西口の魅力と価値を高められるように事業を進めていきます。

駅前広場整備が、5月の連休明けより本格的に工事が動き始めますので、市民はもとより、職員の皆様につきましても、工事車両の通行や交通規制などでご迷惑をおかけする場合がありますので、駅西口を通行の際は、交通誘導員及び看板の指示に従うようご協力をお願いします。

**放送日** 令和4年4月28日（木）  
**担当者** 政策広報課長 加藤 丈博

おはようございます。企画財政部政策広報課の加藤丈博です。

私は、平成11年に入庁してからこれまでに町名整備や介護保険、ごみの有料化、選挙、庁舎管理、総合計画、議会運営など様々な業務を行ってきました。

4月からは政策広報課ということで、広報やホームページ、シティセールスなど市内外に様々な情報を発信する業務に携わります。

現在の情報発信の方法は多様であり、動画配信、フェイスブック、ツイッター、インスタグラムなど、それらの各種ツールを活用して幅広い年齢層に積極的な情報を発信することが必要です。また、情報を掲載したからそれでいいのではなく、情報を必要とする人に、どのようなツールを活用することが効果的なのか、発信している内容が古くなっていないかを確認するなどの作業も必要になってきます。日々の業務の中で、どのような情報発信が効果的に内容を伝えられるのかを考えながら取り組んで行きたいと思います。

また、昨年度、若手中堅プロジェクトチームから提言があったLINEを活用した新しい情報発信についても今年度、取り組んでいきます。